

ベクトル空間

Jacques Garrigue, 2017 年 10 月 6 日

実数体 前期に行列やベクトルに使われる数(スカラー)について詳しく言及しなかったが、必要な計算を可能にするために、体という構造を持っていなければならない。

$\langle \mathbf{K}, 0, +, -, 1, \cdot, ^{-1} \rangle$ が体であるとは、以下の条件をみたしていることをいう。

- $0, 1$ は \mathbf{K} の元であり、任意の \mathbf{K} の元 a, b について $a + b, -a, a \cdot b$ も \mathbf{K} の元である。
また $a \neq 0$ ならば、 a^{-1} も \mathbf{K} の元である。
- $\langle \mathbf{K}, 0, +, - \rangle$ は可換群である:
 $a + b = b + a, \quad a + (b + c) = (a + b) + c, \quad a + 0 = a, \quad a + (-a) = 0$
- 同様に、 $a \cdot b = b \cdot a, \quad a \cdot (b \cdot c) = (a \cdot b) \cdot c, \quad a \cdot 1 = a, \quad a \cdot a^{-1} = 1$
(ただし最後は $a \neq 0$ のとき)
- 分配律がなりたつ: $(a + b) \cdot c = a \cdot c + b \cdot c$

体の例として、有理数 \mathbf{Q} , 実数 \mathbf{R} , 複素数 \mathbf{C} があげられる。ここではスカラーが実数であるとしているが、他の体を使ってもいい。

逆に、整数の集合 \mathbf{Z} は乗算の逆元 a^{-1} をもたないので、体ではない。スカラーが体でないと一般的に逆行列が計算できなかつたり、不都合が生じる。

ベクトル空間 零ベクトル \vec{o} を含む集合 V と体 \mathbf{K} に対して $+$ とスカラー倍が任意の元に対して定義され、

$$\begin{aligned} \vec{o} &\in V \\ \vec{u} + \vec{v} &\in V \quad (\vec{u}, \vec{v} \in V) \\ k\vec{u} &\in V \quad (k \in \mathbf{K}, \vec{u} \in V) \end{aligned}$$

かつ以下の性質がみたされたとき、 V が \mathbf{K} 上のベクトル空間だという。

$$\begin{aligned} \vec{u} + \vec{v} &= \vec{v} + \vec{u} & \vec{u} + (\vec{v} + \vec{w}) &= (\vec{u} + \vec{v}) + \vec{w} & \vec{u} + \vec{o} &= \vec{u} & 0\vec{u} &= \vec{o} \\ k(\vec{u} + \vec{v}) &= k\vec{u} + k\vec{v} & (k + l)\vec{u} &= k\vec{u} + l\vec{u} & (kl)\vec{u} &= k(l\vec{u}) & 1\vec{u} &= \vec{u} \end{aligned}$$

ベクトル空間の例 以下の集合が \mathbf{R} 上でベクトル空間である。

- (1) \mathbf{R}^n は成分を \mathbf{R} にとる長さ n の列ベクトルから作られた集合 \mathbf{R}^n .

$$\mathbf{R}^n = \left\{ \begin{bmatrix} a_1 \\ \vdots \\ a_n \end{bmatrix} \mid a_i \in \mathbf{R} (1 \leq i \leq n) \right\}$$

- (2) 同様に、長さ n の行ベクトルを集めた \mathbf{R}_n .
- (3) 実数を係数とする 1 変数の多項式 $\mathbf{R}[x]$.
- (4) 区間 (a, b) で連続な実数値関数の集合 $C(a, b)$.

部分空間 V の部分集合 W が V の和とスカラー倍によってベクトル空間となるとき、 W が V の部分空間という。

定理 4.1.1 W が V であるために以下の条件が必要十分である。

- (1) $\vec{o} \in W$
- (2) $\vec{u}, \vec{v} \in W$ ならば, $\vec{u} + \vec{v} \in W$
- (3) $\vec{u} \in W, r \in \mathbf{R}$ ならば, $r\vec{u} \in W$

例 次数が n 以下の 1 変数の多項式の集合 $\mathbf{R}[x]_n$ は $\mathbf{R}[x]$ の部分空間である。

例題 A が $m \times n$ 行列のとき、次の W は \mathbf{R}^n の部分空間であることを示せ。

$$W = \{\vec{x} \in \mathbf{R}^n \mid A\vec{x} = \vec{o}\}$$

解の空間 同次形の n 変数の連立 1 次方程式の解の集合が \mathbf{R}^n の部分空間である。 $A\vec{x} = \vec{o}$ の解の集合を解の空間と呼ぶ。

例題 次の W が \mathbf{R}^3 の部分空間となるかどうか調べよ。

- (1) $W = \left\{ \vec{x} \in \mathbf{R}^3 \mid \begin{array}{l} 2x_1 + 3x_2 - x^3 = 0 \\ x_1 - 2x_2 + 3x_3 = 0 \end{array} \right\}$
- (2) $W = \left\{ \vec{x} \in \mathbf{R}^3 \mid \begin{array}{l} 2x_1 + 3x_2 - x^3 = 1 \\ x_1 - 2x_2 + 3x_3 = 2 \end{array} \right\}$

例題 次の W が $\mathbf{R}[X]_3$ の部分空間となるかどうか調べよ。

- (1) $W = \{f(x) \in \mathbf{R}[x]_3 \mid f(1) = 0, f(-1) = 0\}$
- (2) $W = \{f(x) \in \mathbf{R}[x]_3 \mid f(1) = 1\}$
- (3) $W = \{f(x) \in \mathbf{R}[x]_3 \mid xf'(x) = 2f(x)\}$